

子どもたちの理解と支援のために



「急に予定が変わると、混乱する」、「誰かと話をしているときに、自分のことばかり話してしまい、止まらなくなる」などの問題を抱えている子どもの中には、発達障がいと思われる場合があります。子どもの特性を正しく理解し、適切な支援や環境を地域で協力し整えることが大切です。

1 周りのおとなは何ができるのでしょうか？

「どうして〇〇〇できないの?」、「ちゃんと〇〇〇しなさい」では、解決になりません。保護者は子育てにおいて、「育て方がわるかったのか?」、「しつけが間違っていたのか?」などと悩んでしまいますが、育て方やしつけの問題だけではない場合があります。子どもへの正しい理解と適切な支援が必要です。



子どもたちの健やかな成長を、学校、家庭、地域社会で見守り、支えていきましょう！

2 子どもの特性を正しく理解しましょう！

「さっぱりわからないまま授業がすすんでいくよ」、「一生懸命やっているのに何で上手くできないんだろう」、「今日も忘れ物したの?」って言われたよ」
子どもはこんな状況が続くと、自分を責めたり、自信を失ったりしてしまいます。どの特徴が強いのかは一人ひとり違い、成長によっても変化します。何よりも子ども一人ひとりの特性や状態を正しく理解することが大切です。

3 子どもに自信と充実感を持たせましょう！

子どもの個性を尊重し、子どもに自信や認めてもらえたという充実感を持たせることが大切です。

4 こんなときは悩まずに相談してみませんか？

「どうしていいのかわからない」、「きつく叱ってしまう」など、こんなときは悩まずに、下記の相談窓口にご相談ください。周囲の大人たちが特性に応じた丁寧な関わり方を理解することで、子どもの困っている気持ちを減らすことにつながります。

相談窓口のご案内



- 【発達に関する相談】
 ・保健福祉センターはーとふる 保健医療課 ☎ 49-6050 (五十嵐町1丁目)
 ・幼児療育通園センター ☎ 42-1109 (元町5丁目)
- 【教育・就学に関する相談】
 ・市・教育委員会学校教育課 ☎ 42-3006 (幸町1丁目)
- 《通園・通学している場合》
 ・幼稚園、保育園では…担当主任など
 ・小中学校では………特別支援教育コーディネーターなど

子どもの発達や成長について気になっていることはありませんか？

※以下のような特性があったとしても必ずしも発達障がいがあるというわけではありません。

多動性

落ち着きがなく、すぐに席を離れる。体を動かすことがやめられない。

指示理解

1対1では、説明や指示がわかるのに、みんなの中では、なかなか理解できず、ひとりだけ違うことをしてしまう。

衝動性

友だちに軽く触れられただけで叩かれたと思い、友だちを叩いたり、ささいなことでも、カッとなったりする。

興味・関心のかたより

特定のことにこだわりがあったり、興味にかたよりがみられる。好きなことについては、とても詳しい。

コミュニケーション

おしゃべりで話好きだけど、会話がちぐはぐで、ずれていたり、関係のないことを言ったりする。

不注意

忘れ物が多く、片付けが苦手。ぼんやりすることが多く、話を聞いていないように見える。